

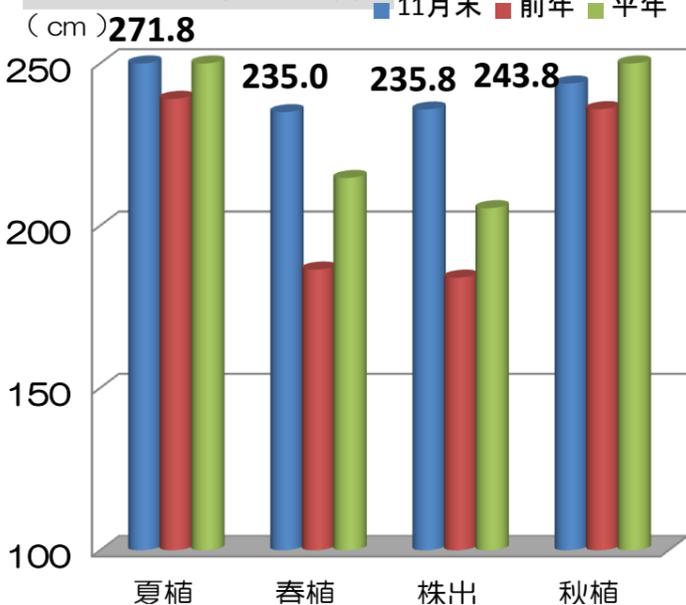
さとうきび生育状況

今期は台風が31個と相次いで発生しましたが直撃を免れました。生育や品質も順調のようです。Bxも平年と比較すると、同等に推移しています。11月末の調査結果は下記のとおりです。

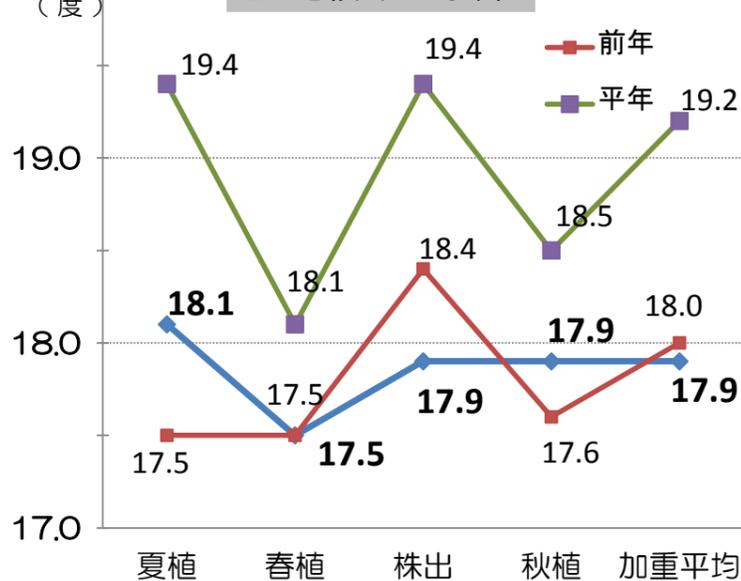
△	夏植	春植	株出	秋植
茎長	271.8	235.0	235.8	243.8
前年	239.1	186.5	184.0	235.9
差	+32.7	+48.5	+51.8	+7.9
▽	271.2	214.7	205.4	256.8
差	+0.6	+20.3	+30.4	-13.0

△	夏植	春植	株出	秋植	加重平均
Bx	18.1	17.5	17.9	17.9	17.9
前年	17.5	17.5	18.4	17.6	18.0
差	+0.6	+0.0	-0.5	+0.3	-0.1
▽	19.4	18.1	19.4	18.5	19.2
差	-1.3	-0.6	-1.5	-0.6	-1.3

茎長比較 (11月末)



Bx比較 (11月末)



お知らせ

一芽苗の配布を
来春も継続します

一苗代 (1本15円) -

生産者	5円
補助 (生和)	5円
〃 (町)	5円
計	15円

申込みの詳細は、後日
ご案内いたします。

喜界町さとうきび
生産対策協議会

農家直撃インタビュー No. 1

私のキビ作り

赤連
折田久男さん

12月上旬、穏やかな小春日和の日、川嶺の圃場で中耕作業中の折田さんに、直撃インタビューをしました。

平成12年にハーベスタを導入し、収穫作業は夫婦と補助員の3人で、管理作業は主に一人でやってらっしゃるそうです。

「前期は収穫作業が3月で終了したので、春植や株出圃場の管理が早めのできたので良かった。農家としては次年度の生産管理が早めに着手でき製糖終了は早い方が望ましい・・・。従来は夏植中心であったが、春植で効率的な経営、株移行しやすいこともあり、今後も春植は拡大したい。」と語っていました。又、大きな故障でなければ多少は修理も自分で、補植機を試作したこともあるそうです。ミニトラクターを2台保有し、株揃え・施肥用と中耕用に分け、地域の方への無償の貸出も呼びかけていらっしゃる大らかな方です。

「株出補植には、株起しする畑を荒く耕起し、その株出苗で補植している。一芽苗よりも遅発茎は、根も十分に張り丈夫であるので土に活着しやすいし、又苗面積の減少もない。キビ作りは定年が無く、自身のペースで作業が出来、ストレスも感じず、健康である限り働いていきたい。今後は高価な機械導入は、組織で購入して貸し出したり、機械メーカーもキビの圧搾や原料の製造工程をみてもらい、収穫機械などの改良、改善することも必要だ」と、前向きに熱く語っていらっしゃいました。

貴重な時間を惜しまず笑顔で対応して下さい、ありがとうございました。



中耕 (夏植) 12月5日

さとうきび増産に向けた株出管理ポイント

収穫面積の約6割を占める株出は、管理をしっかり行えば生産量が増収します！

- 1 収穫後の早めの残渣 (ハカマ等) の処理
ハカマ等が腐葉土になりやすく、日光を遮るため萌芽が悪くなる。
- 2 根切り及び中耕
中耕により通気性が良くなり根の数が多く張り、肥料の吸収が促進される。
- 3 中耕の後で早期の除草剤を散布
雑草が成長してしまい、除草剤の規定量を超えると葉が枯れるなどさとうきびの成長が阻害される。
- 4 収穫時に踏圧された土壌を柔らかくする
重い機械が圃場に入り土壌が固くなり根が発育が阻害されるのでサブソイラー、プラソイヤーやプラウなどで土を柔らかくする。

師走に入り製糖期を控え何かと気ぜわしい時期、あちこちでスポーツ大会や講座の集大成に入っている。★過日、町民が受講している公民館講座の閉校式を覗いた。日常見る中高年が、背筋を伸ばし軽やかにダンスを楽しむ、高らかに歌う唄や民謡、詩吟、三味線・・・半年間の学習した成果の発表の場に、老若男女が積極的に参加している姿に、感嘆した。第一線を退き、社会との繋がり、趣味の開拓や異年齢との交流・・・各々の目的で楽しんでいる。★高齢者人口が多く占める昨今、生涯学び心がけや姿勢はいつになっても持ち合わせ、身体的にも脳年齢的にも健康を保ち、若くありたいものである。

